

千葉大学医学部同窓会報 第102号 題字 鈴木五郎

編集発行者
千葉大学医学部
みのはな同窓会報編集部
〒260 千葉市中央区袁鼻1-8-1
千葉大学医学部内
みのはな同窓会
電話 (043) 222-7171 内線 2038

附属病院長就任の挨拶

外科学第二講座

磯野可一 (昭33年卒)



四月一日から金子病院長の後任を拝命することになりました。正直なところ未だ実感として湧いてまいりません。幾多のあまりにも多くの問題を抱えている現状で、いったい何がどこまで出来るかと自問させられます。六年間一貫教育に伴う教育カリキュラムの編成、卒前早期臨床実習、卒後早期研修、大学院制度の見直しと充実、老人医療の改善、医療費抑制、人員の削減、看護婦不足の問題、輸血療法、末期医療に関する改善、専門医(認定医)制度に関する諸問題、在宅医療、医療施設機能の体系化(特定機能病院と療養型病床群の創設)などなどの問題が山積しております。このような時代背景の中で、私を院長候補に選んで下さった方々は、私の若さや行動に期待されたものだと思っております。

そこで、今、私が心の中に抱いた信念は、『変革と連携』であります。

す。出来るだけ時代の流れに沿った将来構想の上に立つての教育・研究・診療面に於ける変革と、それらを取り巻く環境の改善に努力したいと思えます。又、連携は縦と横のつながりを大切に、大学病院を取り巻く関連の施設とその人々、更に院内のすべての従事者との絆を大切に、更には情報化時代を背景に、世界の医療情報収集に努めたいと思っております。

一方、医療現場の見直しと充実が急務であるように思われます。医療とは医療従事者すべての人々の倫理・慈愛を母胎とした上に、医学と医療が存在するものであり、医療従事者は単なる社会的集団ではなく、病める患者さん一人一人に対して、個人個人が大きな責任を持った集団的個人ともいうべきものでなければならぬと思っております。病院はそして医療は、患者さんのためにあることを私自身が常に忘れてはならないと思っております。

いずれにしても大学病院の存在意義を、病院としての果たす役割は何かを自問しながら当面する諸問題に真正面から取り組んでいきたいと思っております。皆様方の御教授と御支援をお願い申し上げます。

みのはな同窓会総会のお知らせ

今年のみのはな同窓会総会は、左記の通り開催いたします。同封の葉書にて出欠の返事をお送り下さいますようお願い申し上げます。(六月十日必着)

- 一、日時 平成五年六月二十六日(土)午後三時より
- 一、場所 千葉大学医学部附属病院第一講堂
- 一、総会次第 (1) 会務報告 (2) 議事 ① 平成四年度決算 ② 平成五年度予算 ③ その他
- 一、講演 服部幸雄氏 (千葉大学文学部教授) 演題 「歌舞伎と江戸文化」
- 一、懇親会 午後五時より、附属病院第三講堂 会費 一万円(当日受付にて申し受けます)

柳澤健一郎氏 (昭和37卒)

谷修一氏 (昭和38卒)

厚生省局長に栄進

卒業後、一貫して厚生行政に献身されている柳澤健一郎、谷修一の両氏が、厚生省局長の要職に栄進された。

柳澤氏は昭和38年本学卒業後、厚生省保健医療局国立療養所課長、同国立病院課長等を歴任され、平成二年七月より環境庁企画調整局環境保健部長として活躍中のごところ、平成四年七月、厚生省生活衛生局長の要職に昇任された。

谷修一氏は昭和38年本学卒業後、厚生省老人保健部老人保健課長、大臣官房厚生科学課長等を歴去る平成二年六月より厚生審議官(科学技術、国立病院担当)として活躍中のごところ、平成四年十月、厚生省保健医療局長の要職に昇任

された。

両局長の今後のご発展、ご活躍を期待してやまない。(安達元明記)

人事異動

千葉大学医学部附属病院長

磯野可一 (昭33卒)

教授昇任 (千葉大学)

徳久剛史 (昭48卒) 医学部附属高次機能制御研究センター生体情報分野

長尾啓一 (昭47卒) 保健管理センター

教授昇任 (他大学) (平成四年以降)

鈴木英弘 (昭35卒)

東京女医大麻酔科学室主任教授 高橋弘昭 (昭42卒)

金沢医大小児科学 深尾立 (昭39卒)

筑波大臨床医学系外科学 諸岡啓一 (昭41卒)

東邦大医学部第一小児科学 佐々木望 (昭41卒)

埼玉医科大小児科学 丹羽章 (昭38卒)

独協医大微生物学主任教授 小越章平 (昭38卒)

高知医大第一外科学 助教昇任 (千葉大学)

(平成五年一月以降) 魚住顕正 (昭45卒) 脳神経外科学

宇野公一 (日本大昭49卒) 放射線医学

更科廣實 (昭42卒) 外科学第一 岩崎秀昭 (昭51卒) 産科婦人科学

菅野雅元 (千葉大薬学部昭52卒) 医学部附属高次機能制御研究センター免疫機能分野

講師昇任 (千葉大学) (平成四年十月以降)

林文明 (帝京大昭53卒) 生理学第二

黒崎久仁彦 (筑波大昭62卒) 法医学

木村弘 (金沢大昭53卒) 呼吸器内科

山森秀夫 (昭47卒) 外科学第一 河原克雅 (東北大昭53卒) 生理学第二

祝平成四年秋 叙勲・表彰

勲四等瑞宝章

松浦公三先生 (昭22卒) 在任十年日本医師会委員 優功賞

長沢仁一先生 (昭24卒) 国保功績者厚生大臣表彰

亘威先生 (昭19卒) 支基金功績者厚生大臣表彰

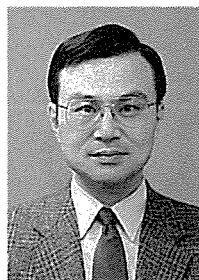
加藤一夫先生 (昭20卒)

教授就任の挨拶

千葉大学医学部

附属高次機能制御研究センター

生体情報分野 徳久剛史 (昭48卒)



平成四年三月に退官された内田昭夫教授の後任として平成五年四月一日付けで神戸大学から千葉大学医学部附属高次機能制御研究センター生体情報分野に配置換えになりました。

私は昭和48年に本学を卒業後、同大学医学部第2内科教室で熊谷朗教授、富岡玖夫講師(現：東邦大学教授)のもとで臨床研修を行いました。その後、昭和50年より同医学部附属環境疫学研究施設免疫研究部(現：高次機能制御研究センター免疫機能分野)において多田富雄教授の指導のもとに大学院生として免疫学研究の手ほどきを受けております。米留留学の後、昭和55年に免疫研究部にもどり谷口克教授のもとで助手として免疫応答調節に関する分子論的解析を行いました。その間に遺伝子操作技術や発生工学のめざましい技術的進歩を見るにつけ、これらの技術免疫学研究に取り入れる必要性を強く感じておりました。

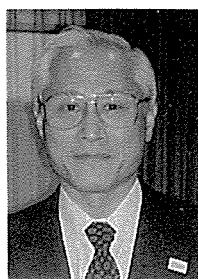
そこで、昭和58年から西ドイツへ留学し、発生工学技術のひとつであるトランスジェニックマウス作製技術を習得して来ました。昭和60年に帰国後、免疫研究部において同様の技術の免疫学研究への応用を試みておりました。その後、昭和62年から神戸大学医学部附属医学研究国際交流センター免疫学分野へ転出し、トランスジェニックマウス法を用いて免疫不全モデルマウスの作製とそれらを用いた免疫応答調節機序の解明などを手掛けておりました。

生体情報分野においてはこれまでの研究をさらに発展させるべく発生工学を応用して疾病モデル動物の開発や個体発生・リンパ球分化の機序を分子レベルで明らかにしていこうと考えております。発生工学の技術は医学研究には必須の技術となりつつあります。このような技術は医学部の中でどこかの教室が中心となつてオーガナイズしていく必要があると思ひます。生体情報分野としては自分達の研究ばかりにとらわれず医学部全体で発生工学の技術を利用出来るように努力するつもりです。本学は私の母校ですので、学生時代より御指導いただいた先輩先生方に再び御指導いただけることを希望するとともに諸先生方に甘えることなく、自分のScienceを目指して努力していこうと思ひます。そして同時に次代を担う医師、

国立小児病院小児医療研究センターに赴任して

国立小児病院小児医療研究センター長

雨宮浩 (昭35卒)



一九九二年四月一日付で国立小児病院小児医療研究センター長を拝命した。もともと同年九月に第二十八回日本移植学会を会長として大阪市で開催する予定であったので、九月一杯前任地の国立循環器病センター研究所と兼任させていただいた。

私が第二外科講師から国立循環器病センター研究所部長として大阪に赴任したのは一九七八年四月であったから、十五年目にして再び関東の地に帰ってきたことになる。私の実家が中央線沿線の武蔵野市で、千葉大学との交通路から外れていたこともあって、国立小児病院のある世田谷区には馴染み薄であったが、それにしても大阪千里ニュータウンの住宅地の中にある国立循環器病センターから国立小児病院に移つてみると、周辺の人口や建造物の密集度のため、まるで別世界に來た観がある。JR渋谷駅からバスで約十五分、国立

研究者の育成に全力を傾けるつもりです。これからのよろしく御指導下さいますようお願い申し上げます。そして同時に次代を担う医師、

子ども病院前で下車する。三三、〇〇〇平米の敷地に四九、〇〇〇平米の建物が建ち、うち研究センターは八、二〇〇平米の独立した茶色の五階建のビルである。小児医療研究センターは創立八年になる。八つの研究部があり、正規の研究員は私を含めて三十三人、それに外部から流動研究員やレジデント、研究生などの二一〇人が加わつて研究を進めている。先天性疾患、悪性腫瘍、免疫異常などを対象とし、遺伝子操作を得意とする。私自身はこれまで培ってきた臓器移植の知識を基に小児臓器移植を確立したいと考えている。この四月からは腎移植を開始すべく準備中である。

厚生省の直轄組織に国立病院と国立研究所がある。この二つを一つに統合したマンモス組織に国立がんセンターや国立循環器病センターのような国立センターがあり、高度専門医療研究機関として特別会計のもと、目覚ましい業績をあげている。現在の小児医療研究センターは、形だけは既に国立センターのそれに近いが、その内容と陣容を拡大し、名実ともに国立センターにする時期に來ている。日本の臓器移植の問題も昨年一

月の脳死臨調答申を得て大きな転換を計ろうとしている。小児医療研究センターも更なる脱皮をして国立センターを目指している。この二大事業に直接関与する機会に恵まれたことに喜びを感じるとともに感謝の念を禁じ得ない。

あのはな会だより
安房あのはな会

安房あのはな会総会は、平成四年二月七日(金)館山市ホテル海幸苑で、佐藤甫夫教授、藤村真示教授をお迎えして二年振り開催された。先ず、平成三年八月に物故された白幡静夫(昭13卒)安房あのはな会会長の後任として、野原宏(昭17卒)先生が新会長に推せんされ、満場一致で承認された。

各種報告の後、佐藤甫夫教授から「最近の学内事情」、藤村真示教授から「胃がんの予防」を御講演頂き、次に、懇親会となった。出席会員は左記の通りで、(一)内は卒業年を示す。橋本与志郎(16)、野原宏(17)、柴田耕三(24)、高木達(25)、岡野和夫(27)、本位田泰介(28)、貴家昭明(30)、西川義明(34)、原久彌(34)、佐伯陳哉(35)、青木謙(36)、本多満(37)、関谷信平(38)、植木良裕(53)、大島龍男(60)。

安房医師会が経営する安房医師

お願い

叙勲、褒賞その他祝事に関係された方は是非同窓会事務局まで一報下さい。編集部でも絶えず注意しておりますが、ニュースに接し得ない事態もあります。お喜びはなるべく早く、同窓の皆様にもお分けしたいと思ひますのでよろしく御願ひ申し上げます。

(青木 謙・昭36卒・記)



クラス会だより

白 兎 会

私共49名は昭和17年繰上卒業にて直ぐ戦場に送り出されて以来50年白兎会と称し毎年必ず集まってきた。昨秋、その50年を迎え千葉市ホテル、サンガーデンに記念クラス会を行った。現存43名、出席17名、未亡人など7名であり物故36名(内戦没11名)の追悼の供花の前に語りかけ黙祷を捧げた。恩師の方も今は少なく旧友も病院の方もあり、感無量であった。私共は毎年正月に定時集会を催し、又旧友の世話で奈良、その他に28回の親睦旅行を重ね、他のクラスの方より感心されている。戦中、戦後のきびしさの中の心のつながりであろうか。友人の世話で奈良方面に松本氏、青山氏と言う権威の方の御案内で極めて高度な文化の旅を味わってきた。きびしい時代



を生き抜いてきた得難い誇りと思う。既に75才前後となり2世が働いている方も多い。50年前を懐かしく語り合い、一泊をはさみ姿貌著しい千葉市周辺を旧大学病院から稲毛、幕張更にモノレール、佐倉歴史民俗博物館などを巡った。私共は「白兎」と言うクラス会誌を今回で6号を刊行し、所感随想又反省と共に友情の証とした。白兎の意味は誌上に記してある。永年元老として敬愛した宝積兄の急逝に逢い追悼と共に今まで尽力されてきた水間正冬兄を一同で会長に推し来春の定例会の集まりを期し、散会した。(内田成和 記)

春 秋 会

(昭和31年卒、開業医グループ)

平成四年十一月十四日大洗観光ホテル泊。地元「磯節保存会」の名人・石沢竹葉の情緒溢れる唄と踊りを楽しむ。続いて今回の世話役、海老原雄一君の心にしみる「磯節」を聴く。

水戸駅から大洗まで大洗滞に巻き込まれ、翌日の袋田の滝を急遽村松虚空蔵尊、佐竹寺に参る。西山荘、借楽園は予定通りに廻る。大洗滞でナンノ車大団サヤ。

諸所に見事な紅葉を見る。好天に恵まれ小さい秋を見つけた旅。借楽園の観梅で大雑踏に辟易した体験があるが、紅葉の借楽園は結構なもの。名園は四季折々に美しいものと認識した。



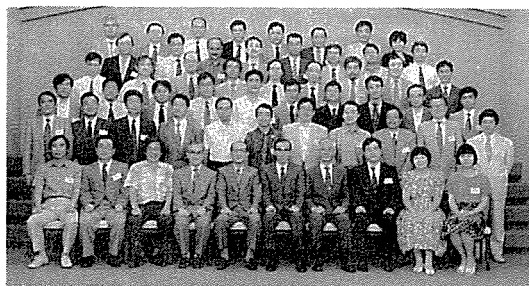
今回の企画は二月に立てた。最近の旅行事情は早くしないと組めないからだ。そのため当初十八名の参加が十名になってしまった。その間に三ヶ月入院し手術して参加した僚友もいる。

昨年は鬼怒川泊を企画したが、参加者が少なく見送り。冠婚葬祭の増加と体力の減少から、諸兄は多忙である。定年のない我々開業医は、「のんびり旅行」は生涯できそうもない。

参加者は小野清四郎常任幹事、大島一浩、志村公男、古川裕生、中野喜久男、海老原雄一の諸君と上野恭一広報係。夫人三人。(上野恭一 記)

四 一 七 会

昭和四十一年に本学に入學、あるいは、四十七年に卒業した者が集う四一七(ヨイナ)会は、平成



四年八月十五日に卒後二十周年を記念して第二回目のクラス会をホテルサンガーデン千葉で開催致しました。

参加者は五十四名で、来賓として吉田 亮千葉大学長、金子敏郎附属病院長、およびわれわれが学生時代に教授であられた橋 正道・永野俊雄両医学部教授にご臨席頂きました。八月十五日は比較的時間の都合がとりやすいと目論んでおりました。ところがクリニクを開いている者には年に数少ない家族と過ごせる長期休暇のため不参加との連絡を頂戴した方々もあり、申し訳なく思いました。

開会に先立ち、前日八月十四日に亡くなられた香月秀雄先生のご冥福、そしてこの十年間に失った二人の同級生、山崎 茂君、池松 正次郎君、の冥福を祈り、黙祷を捧げました。吉田象二君の名司会

により、来賓の先生方より大学の近況、医療問題、さらには昔の思い出話まで含んだお言葉を拝聴でき、さらに昨年長崎大学寄生虫学教室の教授に就任した矢野明彦君より活躍ぶりを聞くことができました。その後、一人一人全員近況報告が爆笑の中で行われ、会が終わる頃には全員が二十数年前の学生に戻っておいりました。記念写真撮影を含めた三時間は余りに短く、急遽しつらえた同ホテルのバーでの二次会でも大声、笑いがいつまでもとまりませんでした。われわれの世代は団魂の世代といわれ、良しにつけ悪しきにつけ社会に大きな影響を及ぼしてきました。当時の社会情勢を顧みると平穩無事な学生時代ではありませんでした。あの頃は確かに皆ぞれぞれの立場で真剣でした。香月秀雄先生は大学紛争で揺れ動いていた当時の医学部長、学長代行であられ、その香月先生がクラス会の前日に逝去されたのはわれわれには単なる偶然とは思われませんでした。卒後二十年、われわれは今まさに社会の中堅を担っており、今後も様々な形で医療に貢献せんと決意を新たに十五年後の再会を約束して散会致しました。(長尾啓一 記)

高部吉庸氏 (昭和42卒) 第二回小谷剛文学賞 (中日新聞) を受賞 氏の作品はこの一年間(平成三年十二月~四年十一月)に全国の

氏 名			卒年	没年月日
影沢 銀七	(大8)	昭58	10	29
大橋 栄二	(大11)	昭60	7	18
関谷 正一	(大13)	平4	12	10
新澤市三郎	(昭5)	平4	10	30
後藤 智光	(昭5)	平5	2	19
橋 昌夫	(昭7)	平4	12	7
安藤 建治	(昭9)	平5	1	21
中村 卓二	(昭10)	平4	12	27
小泉 壽	(昭12)	平5	2	17
高瀬 孝三	(昭13)	平4	10	11
佐藤 大勝	(昭14)	平4	11	5
倉田 正	(昭16)	平5	1	27
谷口 正美	(昭16)	平4	12	30
山口 秀夫	(昭16)	平4	10	18
小泉 隆	(昭16)	平4	12	13
竹下 浩	(昭18)	平5	1	25
宮島 梅治	(昭20)	平5	2	16
田ヶ谷 彪	(昭23)	平4	10	21
保科 孝太	(昭24)	平5	2	21
山田 高治	(昭25)	平4	4	20
後藤 達二	(昭25)	平3	6	20
小池 通靖	(昭27)	平4	11	5
松嶋 種義	(昭27)	平5	1	17
三橋 駿一	(昭30)	平5	2	24
山上竜太郎	(昭30)	平5	2	17
小林誠一郎	(昭31)	平5	1	4
野呂 忠慈	(昭34)	平4	12	10
近藤 良晴	(昭44)	平5	3	7
武藤 博	(昭58)	平5	1	6

おくやみ

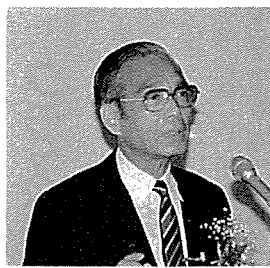
同人雑誌に発表された小説の中で最も優れたものとの評価を受けた。受賞作は小説家八十号に掲載の「その夏の終わりに」。受賞式は名古屋で三月二十八日行なわれた。開業(千葉市都町)の傍らの快挙である。(土屋幸浩 記)

退官記念式典開かれる

平成五年三月で定年により千葉大学医学部の教壇を去られた稲垣義明教授(内科第三、高見澤裕吉教授(産科婦人科学、および岡本昭二教授(皮膚科学)に対する記念式典、記念講演会および記念祝賀会が、三月十三日午後二時より、千葉大学医学部附属病院第三講堂において、医学部主催により行なわれた。記念式典では、近藤洋一郎医学部長のご挨拶のあと、吉田亮学長、小林龍男名誉教授代表、名尾良恵同窓会長、小川道一第三内科同門代表、加藤喜市産婦人科同門代表、林 易皮膚科同門代表からそれぞれ祝辞があり、つぎに、三先生への謝辞が、第三内科科学教室代表増田善昭助教授、産婦人科学教室代表関谷宗英助教授および皮膚科学教室代表藤田優助教授より述べられた。記念式典につき、記念祝賀会が附属病院第三講堂で行われ、当日の記念事業は、滞りなく終了した。



稲垣教授最終講義風景



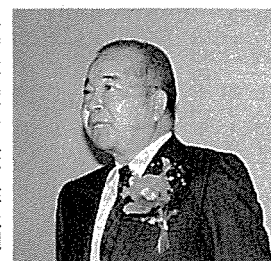
高見澤教授最終講義風景

なお、退官記念式典に先立ち、三先生による最終講義が、学生ほか学内外多数の方々の出席の下、左記の日程で行なわれた。

平成四年度卒業生 進路決る

(衛生) 中島浩一、(二内) 浅野康治郎、池内 哲、久保聡志、兼田緒輔、関谷武司、田中耕太郎、村手秀子、(二内) 浅海 直、伊勢美樹子、塚原佳代、花岡英紀、原 暁、廣瀬晃一、福田和司、増田真一、(三内) 小野克弘、佐藤幹生、野本清志、藤本善英、松

二月四日、岡本 昭二教授「皮膚科疾患の変貌」
二月九日、稲垣 義明教授「虚血性、高血圧性疾患の診断と治療―最近の進歩―」
二月十日、高見澤裕吉教授「産婦人科学における最近の進歩」



岡本教授最終講義風景

本泰典、渡辺 聡、(呼吸内) 安藤拓志、上野敦子、新行内雅斗、鈴木陽一、中村 晃、渡辺 哲、(放射線) 安藤 健、国又 肇、波多野 治、本折 健、(精神) 小澤公良、熊切 力、(小児) 尾崎由佳、金子慎一、本田隆文、(皮膚) 角田寿之、濱屋永子、(二外) 伊藤雅昭、今中信弘、加藤一喜、柴田陽一、杉本克己、高橋 均、土田智一、中山光由、(肺外) 大塚隆弘、本橋新一郎、横須賀忠、(整形) 天野景治、池間理重子、岩井千草、徳永 進、村上宏宇、村田田章、山下桂志、(産婦) 杉田達哉、永井雄一郎、(眼) 市川美奈子、川端秀仁、黄 鴻鈞、山口伸幸、(耳鼻) 荒瀬佳奈子、落合紀子、岸安久、小林伸宏、藤本浩之、(泌尿器) 太田 昭、貝淵俊光、塩見興、布瀬谷先子、溝口研一、(脳外) 坂尾誠一郎、町田利生、(小児外) 末吉智博、妻木知郎、(他大学、病院) 井上賢治(東大眼)、今井雅子(東医歯大小児)、植田由美子(順天堂精神)、上野 誠京大放射線、大木敏美(船橋二和)、大木麻理奈(東医歯大皮膚)、奥田隆仁(静岡済生会)、桂 敏明(大阪大1外)、国松志保(東大眼、清水一起(湘南鎌倉外)、

平成五年度 医学部入学者名

(開成) 矢野浩二朗、米山泰生、阿部又一朗、木納 賢、吉住博明、鍵野敏彦、岡田大介、(津) 井上玄、平葉 安田桜子、宮下智大、上原淳太郎、三浦世樹、矢代智康、内田千絵、上久保出、宮澤康太郎、(東京学芸大学教育学部附属) 木下 香、村野啓明、三澤園子、宮本 牧、(桜蔭) 堀 邦子、田中陽子、加賀谷美穂子、窪田美砂子、安達七生、大野 泉、(お茶の水女子大学附属) 浅野有紀、岡本明子、神白麻衣子、(筑波大学附属) 清水秀文、三宅敦子、川上順子、山中大介、中村映里奈、所知加子、(筑波大学附属駒場) 山口智志、(城西大学附属城西) 細木伸枝、(城西大学付属川越) 常岡秀和、(大阪教育大学教育学部附属天王寺) 西田洋文、(横浜緑ヶ丘) 佐々木恒、(桐蔭学園) 高原野草、三重野浩明、新保正貴、(多摩大学) 斎藤文雄、(白百合学園) 黒田裕子、(伊那北) 上島修一、(首里) 宮城正典、(田川) 笠置泰史、(小石川) 河野正寛、(早稲田大学高等学院) 田中誠治、(福

岡) 松田 豊、(麻布) 高橋宏和、金井数明、(茗田) 荒木康夫、(安子学院) 宮崎雅子、山田 愛、(桐明) 吉田行貴、西田正人、前川潤平、三方林太郎、坂下和寛、(ウ・サー) 小林和人、(栄光学園) 岩田剛和、長谷川正和、窪田吉孝、(東海) 川村幸治、(神代) 清田 昇、(成蹊) 松本美保子、(武蔵(私立)) 中田孝明、松谷智郎、萬納寺誓人、小川 誠、(山形東) 木内 英、(礼幌南) 平田俊明、(修道) 奥川英博、(芝) 森田泰正、(駒場東邦) 須山章、佐々木真、(上野) 泰 東秀、(雙葉) 石川千恵子、(集鶴) 山下教吉、松浦 玄、(鶴丸) 瀬藤勝志、(市川) 家里 憲、(船橋(泉立)) 大森万里子、(北) 鈴木慎太郎、(鉄父) 今井和夫、(向陽) 山本嘉昭、(徳島市立) 堀部大輔、(熊谷) 上野直之、(柏陽坂本信)、(八王子東) 上野彰久、飯田文子、(晃華学園) 石川果林、(厚大) 小林晋二、(越谷北) 末永忠広、(湘南) 横井健人、(東邦大学付属東邦) 水野里子、小笠原隆、(飯田) 三村尚也。

の は な 同窓会 第三回常任理事会 議事録

日時：平成四年十一月二十五日(金) 場所：千葉大学医学部同窓会館 一階会議室
議事内容一、同窓会員名簿管理システムの進捗状況について
岡本常任理事より現状について説明があり、了承された。
二、の は な 同窓会報編集委員会について

編集後記

の は な 同窓会報編集委員会は現在、前号の会報に記したような組織になっております。さらにその後、学内より柳橋雅彦(昭46)、鈴木信夫(昭47)、下山直人(昭57)、白澤浩(昭57)の各委員の追加があり、一層の充実が計られました。また、二月十七日より副編集委員長は岡本教授にかわり私が担当することになりました。
同窓会事務局は昨年、黒木君江さんから秋田幸子さんへ交代になりました。(嶋田 裕)

井出編集委員長より同窓会報の発行状況について説明があった。
三、名簿管理システムに関する業務委託契約について
岡本常任理事より契約書の説明があり、契約を結ぶことが承認された。
四、の は な 同窓会会員補償保険に関する契約について
岡本常任理事より説明があり、契約を結ぶことが承認された。
五、その他 ①大学祭の開催にあたり、学生からの要請により、AIDSの小冊子を発行するための援助を行うことについて清水常任理事より説明があり、承認された。
②新藤清司代行よりの は な 同窓会会則に、代行についての条項が無いため検討して欲しいとの発言があり、早速この問題に対応することとなった。
③新たに選任された常任理事で今回出席された千代倉 三井岡先生の紹介があった。